

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和4年10月18日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから10月18日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明をいたします。

あしたの委員会定例会の議題は3つです。

まず、1つ目が、炉安審・燃安審の委員の任命ということになります。

炉安審・燃安審の委員については、今年の7月に任期切れに伴う委員の任命の議題が1回ありまして、おおむね構成は決まっていますのですけれども、地震とか火山を専門とする委員には、任期がメインの人たちとずれた人がいまして、今回そういった任期のずれた数名の方の委員の任命を行うというものになります。

議題の2つ目は、耐津波設計に係る設工認審査ガイドの改正です。

これは、耐津波設計に関して、津波波圧の評価手法を審査で確認するためのガイドの改正となります。これは昨年の委員会でそういったガイドを作りましょうということになって作業を進めてきたものです。内容は、これまでの審査を改めてまとめたものなので、これまでの審査結果には影響はないものです。

議題の3つ目、日本原燃再処理施設における安全冷却機能の一時喪失事案に係る評価結果です。

この事案は7月2日に発生しまして、7月6日の委員会でもトピックスとして報告されたものですけれども、2系列ある冷却装置の一部、片方が工事中のときにもう片方を閉めてしまいましたという事案でありましたけれども、今回はその事案のINES（国際原子力事象評価尺度）評価を0、安全上重要ではない事象としまして、原子力規制検査の結果として、重要度は特に追加対応なし、深刻度は最も低いSLIV（SL:深刻度レベル）と評価した旨を報告するというものになります。

1ページ目の1ポツの（2）のところ、来週の月曜日の午前中に臨時会議があります。

中国電力の経営層との意見交換となります。中国電力からは瀧本社長と北野原子力本部長ほか参加してウェブ会議で行われます。

次に、3ページに行きまして、もんじゅの廃止措置の安全監視チームです。

議題は2つありまして、燃料体取出し作業の進捗状況の報告ということと、もう一つ、

2つ目が、廃止措置の第2段階への移行に係る廃止措置計画と保安規定の変更認可申請についてということで、これは前回7月14日にも議論をしまして、そのコメントへの回答ということになります。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けいたします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

どうぞ。

○記者 西日本新聞のタカダです。

これに載っていないことで恐縮なのですが、先日、九州電力の川内1・2の運転延長の申請があったかと思いますが、審査のスケジュール、見通しなどが立っていれば、いつ頃から始まるとかそういったものが分かれば教えてください。

○黒川総務課長 そのスケジュールはまだ決まっていないというか、私は報告を受けていないので分かりません。

○司会 ほかにございますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上といたします。ありがとうございました。

—了—